

<b>事業所名</b>	<b>グループホーム大福</b> (クリックすると事業者の情報にリンクします)
<b>日付</b>	平成19年 3月29日
<b>評価機関名</b>	<b>㈱東京リーガルマインド</b> (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
<b>評価調査員</b>	A:現職 高等学校非常勤講師 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター B:現職 障害者自立支援調査員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員
<b>自主評価結果を見る</b>	(事業者の自主評価結果にリンクします)
<b>評価項目の内容を見る</b>	(評価項目にリンクします)
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年5月に開所したグループホームであるため、まずは入居者との馴染みの関係づくりや入居者や家族との信頼関係を築いていくことを目指している。</li> <li>家庭的な環境を目指すと共に、入居者がわがままを言える環境にしたいと考えている。</li> </ul>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>帰宅願望がある入居者に対しては、落ち着くまで一緒に外を歩いたり、寄り添って話題をそらせるようにしている。</li> <li>過去の生活歴から、入居者が得意なことなどを知り、生活の中で活かされるように支援し、やりがい・生きがいを感じながら落ち着いて生活できるように取り組んでいる。</li> </ul>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<ul style="list-style-type: none"> <li>J R 株尾駅や大福バス停に近く、交通の利便性が良い場所に立地している。建物周囲には民家が多いが、田園も広がるのどかな環境である。近くには公園やお宮、商業施設もあり、入居者は日常的な散歩や買い物などで四季折々の変化を楽しんだり生活感を味わいながら暮らしている。</li> <li>要介護度2程度の自立度の高い入居者が多く、職員も心身機能の維持向上を図りながら自立に向けての援助を心がけている。入居者は、一人ひとり得意なことや趣味を生かしながら、できることは自主的にを行い、各自のペースで穏やかに生活している。</li> <li>職員は、保育、看護、歯科衛生、栄養などの有資格・経験者が多く、それぞれの職員が向上心を持って得意分野を生かし、切磋琢磨しながら取り組んでいる。環境づくりにも、職員のアイデアが要所で生かされており、手作りの温かさがある。</li> <li>平成18年5月に開所したグループホームであるが、職員全員がサービスの質の向上に向けて、知識技術の習得や資格取得を目指し自己研鑽している。また、職員一人ひとりが現在の問題点や課題に気づくことができるよう、自主評価をこなしている。</li> <li>法人内5つ目のグループホームである。管理者は、他の法人内グループホームの管理者としての経験を生かしつつも、職員一人ひとりの力を信じ、職員もアイデアや意見を出し合いながら、入居者と同じ生活者として安心の得られるグループホームづくりに熱心に取り組んでいる。</li> </ul>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<ul style="list-style-type: none"> <li>開所以来、入居者との馴染みの関係作り、信頼関係の構築に力を注いできたところである。今後の課題として職員全員が感じていることは、「理念の具体化、実現および共有」、「チームケアのための会議」、「家族への日常の様子に関する情報提供」についてである。現在具体的に検討を進めており、早期の実現を期待する。</li> </ul>

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>入居者が自分で行えること、して欲しいこと、援助が必要なことを見極め、時間がかかってもできることは自分でしてもらうように働きかけている。</li> <li>今まで経験したことのないことでも、できそうなことを見つけ、一緒にできるように支援している。</li> <li>業務上で知り得た入居者や家族のことについては、口外しないように職員に徹底を図っている。個人情報共有や入居者の写真・個人名の表示については、入居者や家族の了解を得ている。</li> </ul>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>職員はサービスの質の向上に向けて、グループホーム内で研修を開催しているほか、外部の研修にも積極的に参加できるように配慮している。参加した職員はホーム内で研修内容を伝達している。休日を利用して自主的に研修に参加したり、資格取得に積極的に挑戦している職員もいる。</li> <li>事故報告書(兼ヒヤリハットレポート)があり、職員は問題意識を持って日々の業務に取り組んでおり、報告事例が多い。報告事例については、職員間で話し合いが行われており、事故の防止、再発防止に向けて努力している。また、転倒事故、誤嚥などについてのマニュアルが作られている。</li> </ul>		